

観光客動向等分析レポート

平成29年8月

山ノ内町商工会

長野県商工会連合会 上席専門経営支援員 田邊 潤一

「じゃらん宿泊旅行調査※1 2017」抜粋

2017年7月25日 発表

※1 観光などを目的とした宿泊を伴う国内旅行の実態を把握するため、2016年度における国内宿泊旅行の行き先や回数・旅行費用を調査

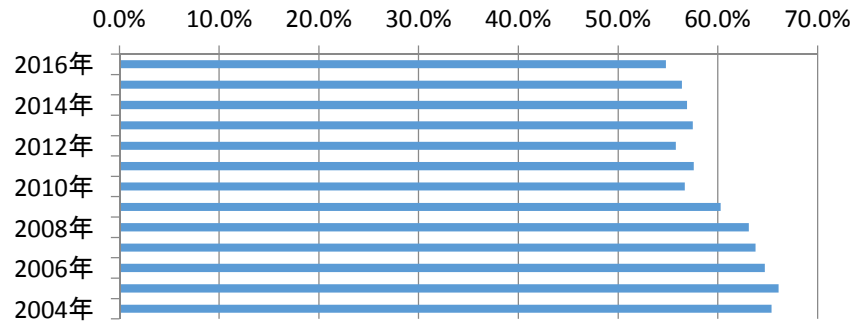
- 宿泊旅行実施率※2は54.8%、**調査開始以来、過去最低** ※2 2016年度全国20-79才男女(宿泊旅行者数推計値/人口推計値)
- 国内旅行回数の平均は2.77回、延べ宿泊者数は2億5,308万人泊で、**前年度比△5.9%**
- 宿泊旅行にかけられた費用総額は約7兆円で、**前年度を9.0%下回る**

旅行実施率

延べ宿泊旅行者数(万人)

2016年	54.8%	14,358
2015年	56.4%	15,313
2014年	56.9%	15,110
2013年	57.5%	15,599
2012年	55.8%	14,505
2011年	57.6%	14,686
2010年	56.7%	15,020
2009年	60.3%	16,239
2008年	63.1%	17,355
2007年	63.8%	17,514
2006年	64.7%	17,366
2005年	66.1%	17,875
2004年	65.4%	17,343

旅行実施率



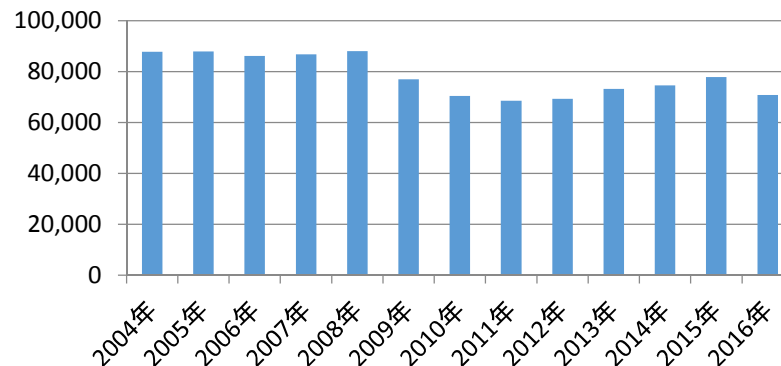
じゃらん宿泊旅行調査
2017では、旅行実施率が前年比1.6pt減。宿泊旅行1回あたりの平均宿泊数は1.76泊と前年と同程度。延べ宿泊旅行者数は前年度比で6.2%減、延べ宿泊数は2億5308万人泊で、前年度比5.9%減と推計される。

宿泊旅行の費用総額

(億円)

2016年	70,878
2015年	77,891
2014年	74,574
2013年	73,210
2012年	69,299
2011年	68,562
2010年	70,477
2009年	76,984
2008年	88,076
2007年	86,781
2006年	86,180
2005年	87,889
2004年	87,835

宿泊旅行の費用総額



宿泊旅行にかけられた費用総額は、2016年度は約7兆円。前年度比で9.0%減少。

1回(大人1人あたり)の宿泊旅行にかかった費用は前年度より1,500円減少し、49,300円となる。

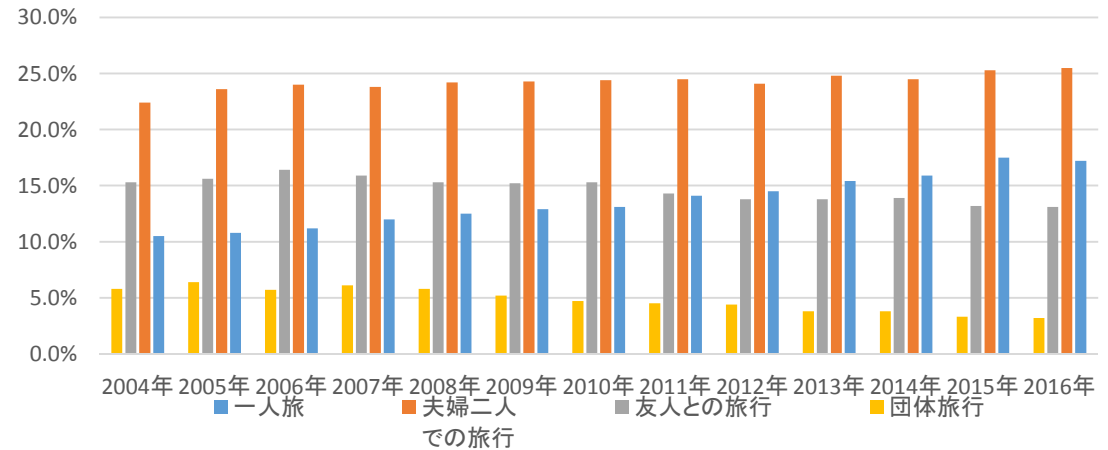
一方、パック旅行については、現地小遣いのみ400円の上昇。

地元ならではの美味しい食べ物や魅力的なお土産創りで国内客の誘客と売上UP!

宿泊旅行の主な同行形態（単一回答）

	一人旅	夫婦二人での旅行	友人との旅行	団体旅行
2016年	17.2%	25.5%	13.1%	3.2%
2015年	17.5%	25.3%	13.2%	3.3%
2014年	15.9%	24.5%	13.9%	3.8%
2013年	15.4%	24.8%	13.8%	3.8%
2012年	14.5%	24.1%	13.8%	4.4%
2011年	14.1%	24.5%	14.3%	4.5%
2010年	13.1%	24.4%	15.3%	4.7%
2009年	12.9%	24.3%	15.2%	5.2%
2008年	12.5%	24.2%	15.3%	5.8%
2007年	12.0%	23.8%	15.9%	6.1%
2006年	11.2%	24.0%	16.4%	5.7%
2005年	10.8%	23.6%	15.6%	6.4%
2004年	10.5%	22.4%	15.3%	5.8%

宿泊旅行の同行形態



都道府県別の延べ宿泊旅行者数の推移

(旅行者数は推計値、単位は万人)

	2016年度 全国：14,358	2015年度 15,313	2014年度 15,110	2013年度 15,599	2012年度 14,505
1位 東京都	1,527	1,675 (1位)	1,702 (1位)	1,720	1,659
2位 北海道	988	1,069 (2位)	1,064 (2位)	1,027	1,025
3位 静岡県	723	748 (5位)	770 (3位)	831	715
4位 神奈川県	708	727 (6位)	768 (4位)	832	766
5位 大阪府	697	776 (4位)	749 (5位)	769	706
6位 長野県	671	809 (3位)	720 (6位)	773	785
7位 京都府	618	625 (7位)	704 (7位)	691	656
8位 千葉県	564	622 (8位)	598 (8位)	662	573
9位 兵庫県	484	560 (9位)	499 (11位)	567	474
10位 福岡県	480	507 (10位)	517 (9位)	499	474

都道府県別延べ宿泊者数の増減

(2015-2016年度 推計値)

2015年→2016年	増加率	増減数
1位 佐賀県	16.0%	17万人
2位 福井県	11.5%	16万人
3位 茨城県	10.0%	11万人
4位 栃木県	8.8%	32万人
5位 岐阜県	5.5%	13万人
6位 香川県	2.2%	3万人
7位 鳥取県	0.5%	1万人
8位 沖縄県	0.1%	0万人
9位 大分県	▲0.3%	▲1万人
10位 山梨県	▲0.9%	▲3万人

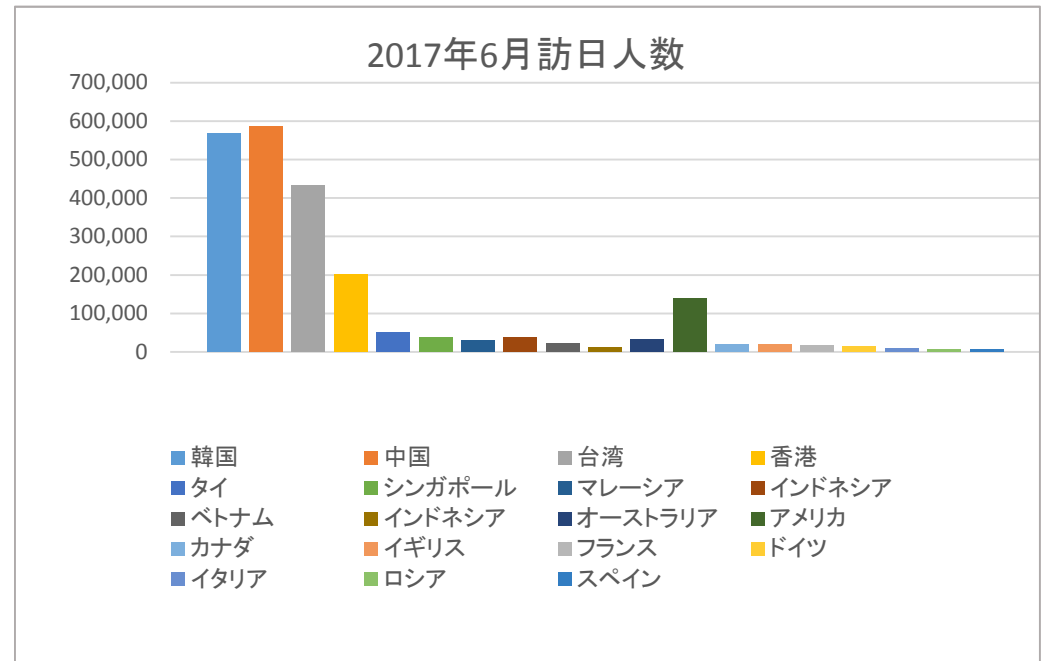
宿泊旅行の同行形態で最も割合が高いのは「夫婦二人」で25.5%。次いで「一人旅」が17.2%と続く。「夫婦二人」「一人旅」とも前年と同水準である。

旅行者の属性別では、20～34歳の男性で「一人旅」が29.1%、50～79歳の男性で20.1%と、この2属性においては「一人旅」が増加傾向を示している。

若年・中高年層の男性旅行者、夫婦二人の旅行者をどう確保し、リピーターに繋げていくかが課題！

日本政府観光局（JNTO） 市場動向トピックス 2017年6月 出典：日本政府観光局（JNTO）

訪日外客数JNTO推計値 (2017.6月)【単位:人】	前年 同月比	備 考	
韓 国	568,900	63.8%増	6月過去最高
中 国	587,200	0.8%増	6月過去最高
台 湾	433,600	9.0%増	単月として過去最高
香 港	201,800	23.7%増	6月過去最高
タ イ	51,800	8.1%増	6月過去最高
シンガポール	36,300	11.4%増	6月過去最高
マレーシア	30,000	43.7%増	ラマダン前倒し
インドネシア	38,300	67.3%増	6月過去最高
ベトナム	21,900	30.9%増	6月過去最高
インドネシア	10,600	11.3%減	10月以来のマイナス
オーストラリア	32,500	7.6%増	6月過去最高
アメリカ	138,000	10.1%増	6月過去最高
カナダ	20,200	6.8%増	6月過去最高
イギリス	19,500	4.0%減	英国発の航空座席不足
フランス	16,100	3.4%減	フランス総選挙
ド イ ツ	12,800	6.4%増	6月過去最高
イタリア	8,300	2.5%増	6月過去最高
ロ シ ア	5,600	58%増	6月過去最高
スペイン	6,500	7.2%増	6月過去最高



訪日外国人数は、インド・イギリス・フランスを除いて、6月単月において過去最高を記録している。

韓国では、大邱・済州からの新規就航や既存路線の増便など、日韓路線における座席供給量が増加したことで、上半期（1月～6月）累計も前年比42.5%の増加と大きく伸長し、過去最高となった。またLCC（格安航空会社）を中心に航空路の拡大が続いており、訪日需要の創出に貢献している。LCCは、関西・新千歳・福岡の各航空への乗り入れが多い。中国では、前年6月にあった端午節が今年は5月となり、訪日者数への影響が心配されたものの、査証発給要件の緩和や継続的な訪日旅行プロモーション効果もあり、プラスの伸びを維持した。台湾では、クルーズが好調で昨年に比べ石垣や那覇～鹿児島を回るコースなどが大幅に増加、また大型クルーズも新規就航し訪日需要を押し上げた。また、タイガーエア台湾の旭川・佐賀への定期チャーター等、各地方へのチャーター便就航や夏のピークシーズンに合わせた季節的な需要による定期便の増便により、地上への誘客を促進した。

インドネシア67.3%、マレーシア43.7%、ベトナム30.9%、香港23.7%などアジアからの訪日客の増加率も高い数値を示している。

訪日外国人数の増加は、航空座席量が重要であり、地方航空へのチャーター等の工夫が必要と思われる。

現地（旅行会社等）でのプロモーション活動も誘客に対して大きな課題である。台湾では、台北・台中・高雄にて「訪日教育旅行説明会および商談会」を実施しており、プロモーション活動の工夫が必要である。ニュースレターの発信や富裕層をターゲットに訪日需要を喚起するための対策も重要である。

山ノ内町 外国人滞在分析

参 考： RESAS（地域経済分析システム）
 出 典： ㈱NTTドコモ、㈱ドコモインサイト
 マーケティング「モバイル空間統計」

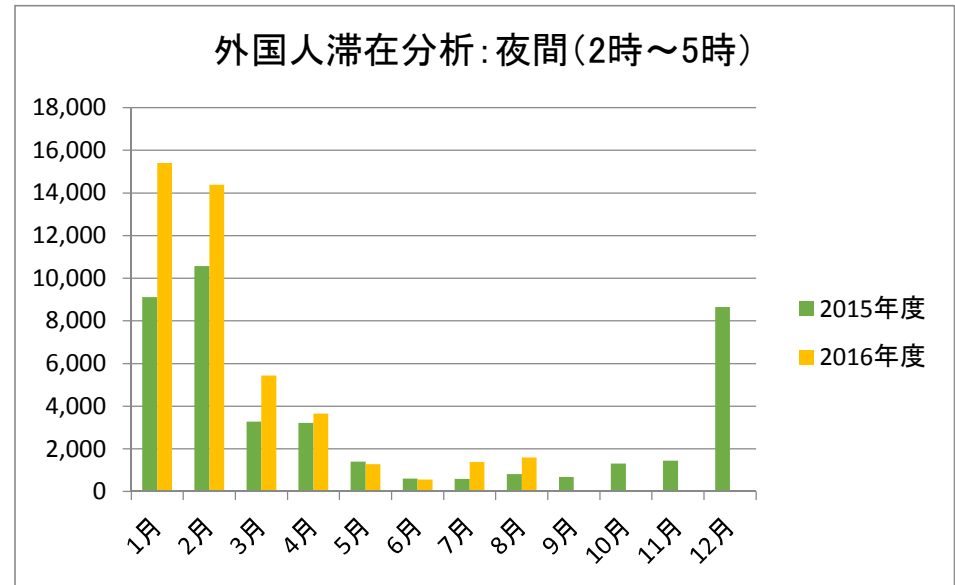
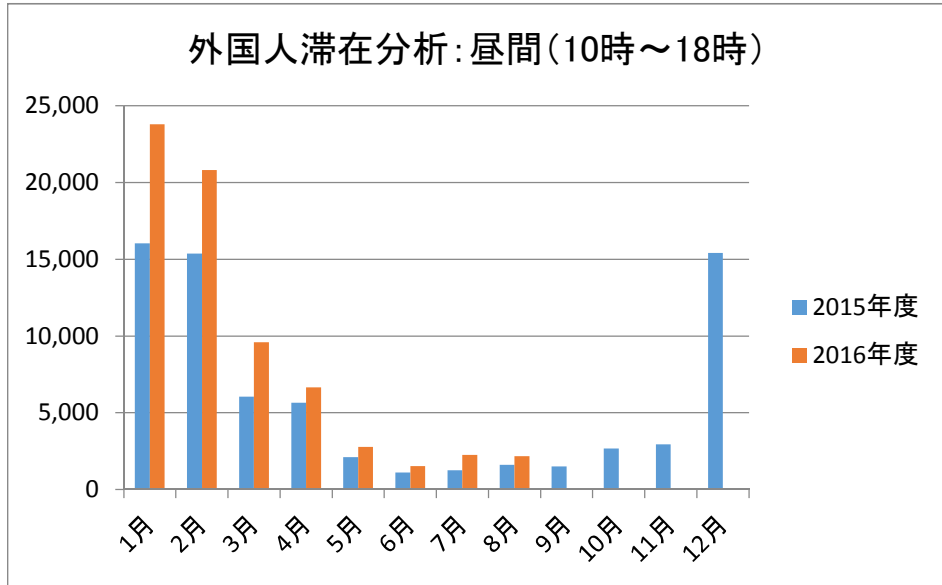
(単位:人)

	滞在時間：10時～18時（昼間）			滞在時間：2時～5時（夜間）		
	2015年度	2016年度	前年同月比	2015年度	2016年度	前年同月比
1月	16,038	23,790	7,752	9,120	15,400	6,280
2月	15,376	20,819	5,443	10,567	14,378	3,811
3月	6,057	9,587	3,530	3,282	5,437	2,155
4月	5,647	6,648	1,001	3,218	3,650	432
5月	2,112	2,789	677	1,394	1,282	-112
6月	1,105	1,522	417	600	559	-41
7月	1,251	2,266	1,015	583	1,384	801
8月	1,611	2,171	560	822	1,595	773
9月	1,500			683		
10月	2,677			1,315		
11月	2,940			1,445		
12月	15,403			8,648		

2015-2016年度の山ノ内町における外国人滞在を比較すると、2016年冬期間（1-3月）が降雪に恵まれた影響からか、昼・夜間ともに大幅な増加を示している。

志賀高原などスキーシーズンが長い特性を活かし、冬期間対策が重要。台湾人旅行者が多い4月の誘客対策も重要（台湾では4/4が児童節・4/5清明節で祝日）。
 雪に縁がないと思われる東南アジア等への対策も必要。最近ではスキー・スノボを楽しむタイ人訪日観光客も増えてきており、グループ旅行への仕掛けの検討も必要。（例えばウェア・用具等全てレンタル可能な商品づくりや、「地旅」（かまくら作成体験ツアーなどの開発など）

※ 推計値は「モバイル空間統計」を活用しているため、2時-5時(夜間)の滞在は全て旅館等での宿泊とは限らない。



外国人消費の比較（クレジットカード）

長野県消費額

長野県消費額(単位:百万円)			
	2015年度	2016年度	対前年比
1月	2,774	4,084	1,310
2月	2,725	3,908	1,183
3月	1,184	1,461	277
4月	1,259		
5月	1,034		
6月	997		
7月	1,144		
8月	1,028		
9月	926		
10月	1,371		
11月	1,499		
12月	3,137		
合計	19,083		

参 考： RESAS（地域経済分析システム）

出 典： ビザ・ワールドジャパン(株)のカードデータを再加工

2015年度の長野県内での外国人のクレジットカードによる年間消費額は、190億円であり、特に12月-2月の冬期間に消費が多いことがわかる。

また、2015年-2016年を比較すると、1月、2月とも大幅な伸びを示しているが、2016年は寡雪だった2015年と比べ降雪に恵まれたことにより滞在が伸びた影響と考えられる。

海外からの訪日観光客は、カードによる決済を望む傾向にあるため、モバイル端末等によるカード決済や電子マネーによる決済への対応が喫緊の課題であると考えられる。

長野県月別 取引単価・取引件数

	取引単価(単位:円)			取引件数		
	2015年度	2016年度	対前年比	2015年度	2016年度	対前年比
1月	20,907	19,866	-1,041	132,686	205,590	72,904
2月	20,778	20,877	99	131,173	187,230	56,057
3月	18,148	17,724	-424	65,282	82,451	17,169
4月	19,227			65,334		
5月	19,528			52,458		
6月	18,458			53,939		
7月	17,616			64,943		
8月	18,791			54,756		
9月	18,952			48,894		
10月	18,453			74,344		
11月	21,317			70,345		
12月	22,114			141,967		

2015-2016年の3月までの取引単価は、概ね2万円前後で推移している。

取引件数をみると、冬期間で13~20万件と夏期間の2~3倍程度の件数があることがわかる。

下記に示すとおり、長野県における冬期間の取引単価は他県と比べても比較的高いことがうかがえる。

【参考：2015年1月取引単価】

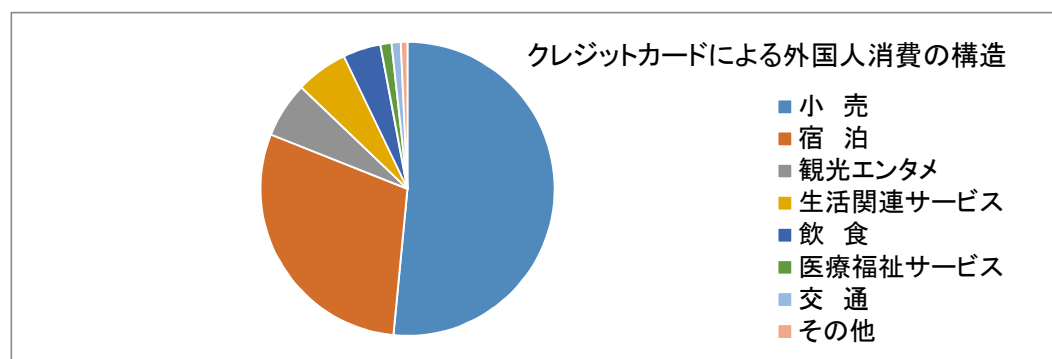
岩手県	25,508円	静岡県	22,553円
新潟県	21,718円	岐阜県	20,532円
北海道	20,071円	東京都	17,645円

長野県内におけるクレジットカードによる外国人消費の構造（2015年）

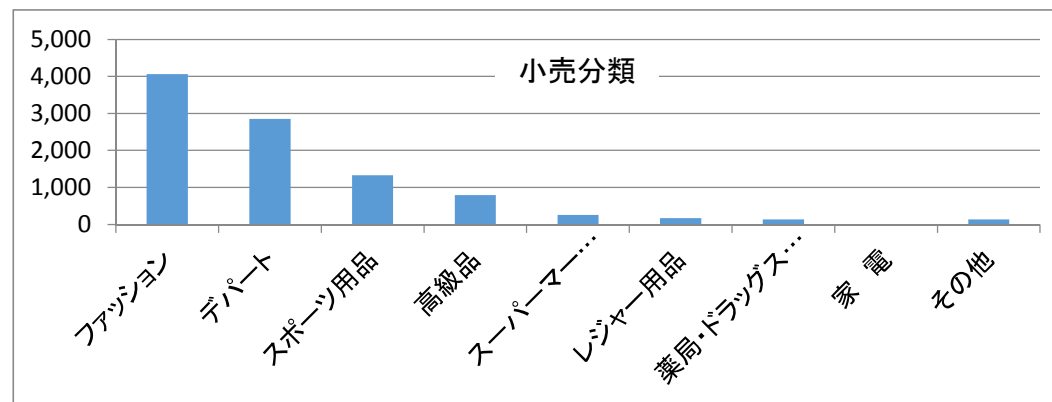
参 考： RESAS（地域経済分析システム）

出 典： ビザ・ワールドジャパン(株)のカードデータを再加工

消費ジャンル	消費額
小 売	9,832 百万
宿 泊	5,625 百万
観光エンタメ	1,169 百万
生活関連サービス	1,094 百万
飲 食	790 百万
医療福祉サービス	234 百万
交 通	196 百万
その他	138 百万



小売分類	消費額
ファッション	4,066 百万
デパート	2,854 百万
スポーツ用品	1,326 百万
高級品	797 百万
スーパーマーケット	254 百万
レジャー用品	169 百万
薬局・ドラッグストア	133 百万
家 電	9 百万
その他	136 百万



※ 2015年度の長野県内でのクレジットカードによる外国人消費は、国内有数の観光地と比べると、やはり大きな開きがある。
 【参照：2015年度の他県との比較】

東京都	宿泊	2,876億円	観光エンタメ	315億円	京都府	宿泊	291億円	観光エンタメ	8億円
北海道	宿泊	277億円	観光エンタメ	79億円	長野県	宿泊	56億円	観光エンタメ	11億円

急激な外国人観光客の誘客増は見込めないと思われるため、クレジットカードの使用可能店舗を増やし、外国人観光客の利便性を高めることで、消費拡大を図ることが有効策と考えられる。